

ワークショップ【A班】 報告

日 時： 平成21年1月26日（火） 午後7時30分～午後9時15分

場 所： 市民会館24号室

参加者：藤原委員、仕名野委員、井上委員、岩佐委員、藤田（ゆ）委員、（佐藤次長、大西参事、今井係長、山崎技師）

●テーマ1：森づくりについて（現状・課題）

内 容：

ア 動植物

- ・山の木の実が多かったため、熊が出なかった

イ 木

- ・グリーンロッジ前に白樺の木を植えるのは好ましくない。害虫が入る
- ・間伐材の利用、活用についての市の対応はどうか
- ・国立公園の指定による規制があるので、伐採に懸念している
- ・人工林育成の見通しはどうか
- ・人工林として樹種を考える。杉と檜だけではどうか

ウ 食

エ 資金

- ・自然のものを活用していかにお金をもうけるか

ウ 登山道

- ・冬があけて春になると道が荒れている
- ・草刈しても刈った草が側溝にたまる

エ 人材育成

- ・人材育成を先に。「団塊の世代」は知力に飢えている

オ PR・観光

- ・宣伝足りない
- ・予算はどうか。「心配するな」か「金づくり」か

カ 取り組みの方式

- ・施設整備は後回しでよい。人の目をいかに森にむけるか

●テーマ2：どんな取り組みをしたらよいか（どんな森にしたいか、魅力が出るか）

内 容：

ア 動植物

- ・動植物を生かした観光・研究
- ・熊が出ないようにするには政府のコマーシャルにあるように単なる米をうえて里へ出てこられないようにしよう
- ・動植物との関連の大切さ（共存）

イ 木

- ・その山のめずらしい植物を植えるのが基本
- ・自然林（含雑木林）の保全・整備
- ・景観整備を進める里地里山ゾーンの整備（植林他）
- ・土地にあった紅葉

ウ 食

- ・大江山グリーンロッジの「雲海うどん」はおいしい。ぜひ、ブランド化にしよう
- ・食文化との関連

エ 資金

- ・風力発電して電気売る
- ・マイクロ発電、水力発電の整備

ウ 登山道

- ・獣害のない共生の森
- ・都会との交流となるきれいな山として昔の山道の開発も考えてはどうか
- ・フィールドワークを中心に
- ・拠点は2つ。「大江山グリーンロッジ」「三岳山荘」
- ・大江山登山道の整備
- ・森の魅力を引き出すためにモデルコースをつくる。セラピーロードも整備
- ・アクセスが大事
- ・昔の道を歩く
- ・頼光の歩いた道
- ・色々とコースを作る
- ・トイレの整備必要

エ 人材育成

- ・ガイド料が入れば続けられる
- ・おもしろいコースと人材を。セミプロ的なものを
- ・ガイドして歩くと大変喜ばれる
- ・部会を作って後継者作っていく
- ・自然環境協力員を使う
- ・山はガイド必要。案内する人材必要。同じところ1年を通したコースとして養成していく
- ・「小金もち」「時間持ち」を生かす
- ・子どもにもわかりやすい森づくり
- ・人材バンクを活用していく。
- ・山の名前とか、木と花の名前とかを教えてくれるガイドの養成

オ PR・観光

- ・情報デザインする。計画していく必要がある
- ・「宝」はあったんか。人を呼べるかの第3者判定会をやったらどうか
- ・常に発信、HP、CM（観光関連）
- ・毎年のイベントが継続的に自然に出来るように考える
- ・草刈体験
- ・雪かき体験
- ・千年の森づくりのホームページを作る PRする
- ・マスコミの活用
- ・ススキの活用
- ・雪の活用
- ・ふるい道具、衣類や家屋の再構築
- ・自然と人工のコラボの調整

カ 取り組みの方式

- ・フィールドワークをしよう。昼歩こう
- ・短期と長期でやるものを。いろんなジャンルがある
- ・森の美しさを知ってもらう 定義が必要
- ・森づくりのキーワードを決める
- ・「千年の森」も最初の5年が勝負 成否が千年に続くか決める
- ・物語、伝説、文献等の再考

- ・各、山のイメージをある程度定着させる
- ・森に仕事が生まれれば生きる

ワークショップ【B班】 報告

参加者：赤松委員、正木委員、小西委員、梅原委員、藤田（直）委員（小西主任、河田主査）

●テーマ1：森づくりについて

1：良い山のイメージ

ア 樹種の多い広葉樹林

- ・明るく木々の間から空が見える
- ・渡り鳥が多い森
- ・広葉樹の林のある山
- ・季節が感じられる山
- ・遠くから見て山肌が見えない山
- ・四季がきれいに表現される山
- ・樹種の多い森
- ・花の多い森
- ・人の手が入っていない山（天然林）
- ・水がおいしい
- ・空気がきれい
- ・どんぐりの多い森
- ・鳥獣が多い森
- ・けもの道を利用した森
- ・動物が生き生きと住んでいる
- ・鳥のさえずり

イ 管理できている人工林

- ・金のなる木のある山
- ・林道が整備されている山
- ・間伐、枝打ちがされている山

ウ 人々が入山しやすい山

- ・森林浴のできる森
- ・遊歩道があると山歩きしやすい
- ・グリーンツーリズムに活かせる山

2：悪い山のイメージ

ア 管理できていない針葉樹林

- ・放置された植林
- ・植林された山で全く手が入られていない山
- ・手入れのされていない人工林
- ・利用できない森

イ 管理できてない山

- ・密集した竹林
- ・農地を森にしたところ

ウ 人々が入山しづらい森

- ・ゴミがいっぱい

- ・暗いイメージがあり怖い

●テーマ2：どんな取り組みをしたらよいか

1：人々が山に入りやすくするために！

- ア 有害鳥獣対策
 - ・猪狩りをして食べる
 - ・獣の駆除
- イ 責任の明確化
 - ・山林所有者の確認・連絡
- ウ 産業としての林業の育成
 - ・記念で植えた木を何十年後に売る（専門家の指導・経過観察が必要）
 - ・林業作業員の育成、またそのための補助制度の充実
 - ・林道の整備
 - ・行政主体で森林整備（整備に金がかかり過ぎる。森づくりに未来を感じない。）
 - ・木材の価格が上昇するような施策
 - ・区別化した森の整備（ゾーニング）
 - ・現状では行政のバックアップで森林整備が必要
 - ・森林保全税の新設（財源確保）
- エ 地元イベントの復活
 - ・遠足の復活（山登りの体験）旧市街の子どもは特に必要
- オ イベント
 - ・きのこ狩り
 - ・木の実ひろい
 - ・どんぐり銀行
 - ・農村観光の延長で山へ
- カ 新しい木材需要の創出
 - ・広葉樹の間伐材を利用してパッチワークの壁を作る
 - ・いろりの復活
- キ 魅了の創出
 - ・実のなる木を植林する
 - ・同一種の花が咲く群生地を作る
- ク 木材の再利用
 - ・谷を活かす・・・発生材を利用する（石・木）